

かがやく

—あなたも、わたしも—



インタビュー

特集
1

「自分の考えで動く、それがいきいきできる秘訣」

かあちゃんのかまどプラス（我孫子市農産物直売所出荷組合 加工部会）

講演会

特集
2

「みんなでやらないきゃ やらないきゃ だめ！」

～災害からいのちと暮らしを守るために～

我孫子市

組織と名称—「プラス」の意味は？

- 司会 お忙しいところありがとうございます。まず、「かあちゃんのかまど」っていうネーミングは？
- Aさん(部会長) 加工部会というだけではさびしいので、愛称があれば親しみやすくなると思いました。かつてご飯を炊いた「かまど」というものがありました。その「かまど」を使ったいい名前はないかと…そこでかあちゃんがお料理をするということをイメージして「かあちゃんのかまど」。そしてありがたいことに2人男性がいるんですね。その意味で「プラス」。女性だけでなく男性もプラスという意味と、今後のいろんな活動もプラスという意味を重ねまして『かあちゃんのかまどプラス』としました。
- 司会 加工部会の組織について教えてください。
- Aさん 加工食品を納品することで、この直売所を支えていくグループです。まだ出していない方で、今後出したいと希望している方も含めた組織です。直近ではこの直売所を盛り上げるために、将来的には付属加工所の設立を目指す、という同じ希望を持った人たちの活動です。イベントをやるうじゃないかという声が起これば、賛同した人たちで実現しています。今15人ぐらいです。
- 司会 みなさん、この加工部会をお作りになった時からやっていたらいいですね？
- Aさん 私たちは準備段階から活動してまして、2年半ぐらいになります。

加工所がほしいんです

- 司会 これを始めたことで、何か変わりましたか？
- Bさん 何も変わらないですよ、ただ聞いてあげただけだから…(笑) 私は忙しすぎて加工食品は作っていませんが、イベントでの販売の時にちょっと力を貸すくらいで、プラスワンのワンは力と書いてもらってもいいくらいで…
- 司会 なるほど、労力で？
- Bさん 設営役ですよ。
- 全員 縁の下の力持ちです！(笑) Bさんはお料理にはすごく興味があるんです。
- Bさん 実際のところ、この直売所に付随した加工所が欲しいんです。同時に自宅でも加工品を作れるようにする、みんなでいろんな加工品の勉強をしていて、イベントに合わせて実演販売もする。どれも準備段階です。



加工部会の自慢の品々

加工部会で友達ができました

- Cさん 農家に嫁いで10年目、加工部ができるまでは実家の仕事とかがして、友達関係の付き合いが少なかったんです。ここに来て、いろんな経験をされている人たちと話もできて、楽しくやらせてもらっています。
- 司会 みなさんが作っていらっしゃるの？
- Cさん イベントの時だけ、米粉を使ったもの—シナモンポテトとかお菓子類を色々作っています。
- Aさん・Dさん Cさんのシナモンポテトは有名なんです！
- Bさん 雑誌にも採り上げられたりしましたよ。
- 司会 ええっ！
- Cさん たまたま米粉を使ったお芋のお菓子を作ったら、載せていただいて。
- Bさん じゃがいもバージョンも作りなよ。
- 司会 じゃがいも！なるほど、秋だけじゃなくて。



自分の考えで動く！

それがいきいきできる秘訣。

地域社会がいきいきするとは、まずそこに働く人たちが、仕事の場でいきいき輝くことではないでしょうか。特に、女性が自らを活かす場をつくりつつある事例として、編集委員が、あびこ農産物直売所[※]にうかがって、出荷組合加工部会『かあちゃんのかまどプラス』のみなさんからお話をお聞きました。

- Aさん・Dさん 視点がちよっと変わってね。
- Aさん 女性の発想と違うのがいい。よいしょ！(笑)
- 司会 よいしょ！そのように作るものって、個人で考えて作るんですか？それとも集まって相談するのですか？
- Cさん 研修会に参加してとか、普段、ケーキ屋さんに行って、そこからヒントを得たりして、個人で考えます。

我孫子の農業は7割が水田

- Bさん 部会でも年に4~5回、調理しながら勉強会を開くし、また、年4~5回はみんなで見学に行っています。次の日曜日野田の枝豆祭にみんなで行くことになっています。今、県で米粉の普及を非常に推奨していて、特別に我孫子が注目されています。
- Aさん 我孫子の耕作面積は7割が水田なんです。それで県から、「ぜひ米粉の普及を」と依頼を受けたわけです。
- Dさん 私も、農家にお嫁に来てずっと家の中にいて人間関係が広がらなかったんです。ここに出てきて気軽に何でも相談する仲間ができたのが、すごく変わったところ。公私ともども。私のほうが多かったです。(笑)
- 司会 お互い、お子さんのこととか、家のこととか？
- Dさん 仕事のこととか、家のこととか、くまなく。(笑)
- 司会 お得意の加工品は？
- Bさん 米粉を使ったケーキ、グラタンを作らしたらDさんの

- 右に出る人はいないでしょう。あと、揚げものも… オイシイ！
- Cさん 断トツです。
- Dさん 揚げもの得意です。
- 司会 みなさんは、ちゃんと把握されているんですね。よく見ていらっしゃる。
- Bさん とっても親密に付き合っていますから。(笑)

部会長さんは仕事振り分け係

- 司会 部会長さんは、いかがですか？
- Aさん 私の得意技は玄米餅なんです。お客様も固定的にいますので、できるだけ通年出すようにしています。あと、イベントでは仕事振り分け係。(笑) あれやって、これお願い、みたいに。
- 司会 代表としてはイベントだけでなく、通常もいろいろ気をつかわれるんじゃないですか？



- Aさん そうなんです、ととてもみなさん気が利いて「あれやるんじゃないの？」とか逆に言われて。
- 司会 みなさんすごい！瞬発力もあって。素晴らしいですね。
- Aさん 農家の嫁なんで、やっぱり家を中心に動いていますが、加工部に来ると自分が中心で動けるのが、いきいきできる秘訣だなと思うんですね。自分の考えで動けるんですよ。
- 司会 みなさんのお姑さんは「ご自分が農家に嫁がれた、その経験をみなさんにも引き継ぎたい」という意向があるのではないですか？
- Aさん 農家っていうのは社会との関わりよりも、家の中の人間関係でほとんどが終結しちゃうんですね。社会の動きとはまた、別個の動き、考え方のまま止まっているところがあるんですね。ですから今、「男女共同参画」ということですが、それはちょっと別個のものだ、というところがあるわけなんです。

今は農業にドブプリ

- 司会 それが家庭経済で、その中で完結していますからね。みなさん、それまでは農業とは関係はなかったのですか？
- Cさん・Dさん まったく関係のないところから来ました。
- Aさん 私は農家で、その苦勞を見ていたので農家には嫁ぎ



- たくなかったのです。嫁ぐときには農作業はしなくてもいいと言われていたのですが…
- 司会 結婚したら、そうではなかった？
- Cさん・Dさん みんなそう。(笑) 少しずつやることになって。結局、家族みんなでやっていると、やらないわけにはいなくなります。
- 司会 でもみなさん明るくはつらつとしていらっしゃる。
- Aさん・Dさん ここに来られるからいいんです。
- 司会 悩みはなさそうです。
- Aさん・Cさん・Dさん 山盛りです。(笑)
- Bさん わたしの両親は農家でしたよ。私はサラリーマン15年ぐらいやったのかな。
- Aさん・Cさん・Dさん でも今はドブプリね、農業。
- Bさん さっき農家の外へ出たいという話があったけど、私は農業以外いろいろ経験しちゃったので、発想が農家じゃないみたいで、よく言われるんですよ。
- 司会 それはいいことじゃないですか。この加工部会に企業感覚を取り入れたという…
- Bさん ようやくこの加工部も7合目ぐらいまで来たのかな。でもよく登ってきましたよ。
- Cさん・Dさん 登って滑って、登って滑って。(笑)
- 司会 実感として7合目ですか？
- Aさん・Cさん・Dさん まだ3合目！(笑)
- Bさん ここにはいませんが、自宅に加工所がある人は、もう10合目へ行っちゃっているわけですよ。

我孫子の商品づくりが夢

- 司会 みなさん共通して作りたい品目は？
- Aさん・Cさん・Dさん 今、我孫子のお米で取り組んでいる米粉の加工品、お菓子と、それから我孫子の野菜を使ったお惣菜は、まず最低限欲しいですね。
- 司会 この場所でいきいきとご自分を生かしてらっしゃるのを見て、ぜひ後からくる人のためにもがんばっていただきたいと思います。それから男性の知恵、ノウハウも生かして。
- Bさん この場から各家庭にもって帰って、個々の加工所を作っていく。個々の味—自分の商品と我孫子の商品を作りたい。
- 司会 ここが拠点となって、大きく広がっていくといいですね。どうもありがとうございました。

※あびこ農産物直売所=我孫子市内の農家が作った安心・安全・新鮮な農産物と加工品を販売しています。 我孫子市我孫子新田22-4 ☎04-7108-3171

《男女共同参画社会基本法》制定10周年

男女がともに担う地域づくりセミナー

我孫子市男女共同参画月間の6月6日、千葉県と共催で「防災」をテーマに講演会を開催。

災害復興に女性の力が大いに発揮された被災地に学び、男女が共に街の防災を担い、地域の防災力を高める取り組みや、子どもの安全を守る防災教育について語り合いました。

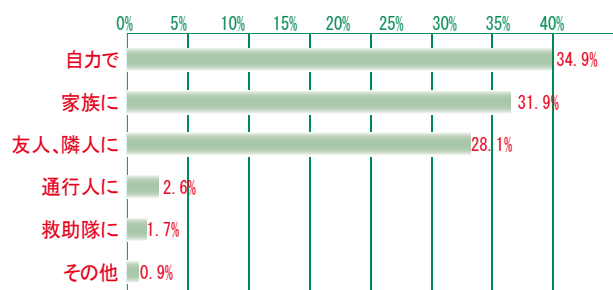
[講演]

みんなでやらないきゃ やらないきゃ だめ! ～災害からいのちと暮らしを守るために～

岡島醇^{あつし}さん

(財)市民防災研究所理事・特別研究員

災害の時はいろいろなことが凝縮されます。その中で男女が共に、大人も子どももみんなで頑張らなくてはいけない、まさにタイトルのとおり「みんなでやらないきゃ やらないきゃだめ！」なのです。



阪神・淡路大震災で生き埋めや閉じ込められた際に誰に救助されたか。

(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における調査報告書」より

災害は予告なしにやってきます。阪神・淡路大震災で生き埋めや閉じ込められた際の救助は誰がしたでしょう。図のように防災はまず自助努力、次に家族・隣人です。そして隣人とのネットワークに強いのは女性です。

災害対策の行政部門に女性が非常に少ない。

いざという時、男性でなくてはできない仕事が多いこともあります。女性の視点を欠いて対策を考えると、いびつなものになります。

中越地震の一週間後に川口町の避難所(体育館)に、仕切りや敷物用にダンボールを届けた時、女子中学生から「ダンボールで着替えのための囲いを作ってほしい」と要望がありました。それが今では写真の組み立て式の更衣室(防災用具)となりました。



防災対策を立てる時にも、もっと女性の視点が必要です。日常の活動でも男女で参画し、協力しあう生活が、地域の防災・減災に繋がっていきます。

[フリートーク]

子どもの安全と学校の防災

岡島醇さん

榎本律子さん

畠中京子さん

(コーディネーター) (根戸小学校教諭) (我孫子第四小学校教諭)



*ぼうさい甲子園(毎日新聞社主催)への取り組みを通して、子どもたちと学年ごとに何ができるか学習しました。防災対策には学校と地域との連携が大切であることを体験しました。布佐南小が平成20年度に「防災奨励賞」、前年に湖北小が「防災大賞」を受賞しました。当時、榎本先生も畠中先生も布佐南小で防災教育に取り組みました。

*一人ひとりが命の大切さを思い、「命のカルタ」を作った四小の子どもたちは、そのカルタを中越地震で被災した小千谷市の小学校に贈りました。

*榎本先生は、もっと子どもたちに説得力のある防災教育ができればと、勉強して防災士の資格を取得。女性の細やかな視点でソフト面のサポートをしたいと我孫子市消防団第8分団の団員(9名中女性1名)になって、活動を続けています。

編集後記

「かあちゃんのかまどプラス」は、男女がともに意見を述べ、企画し、働き、互いに支え合っている。まさにこれが男女共同参画だ！将来は？の問いかけに、加工所を持ちたいと力強く答えてくださいました。その熱い思いに我孫子の農産物を大切に考え、丹精込めて食品を加工している姿を、はっきりと読み取ることができました。(K.T)